

2つの事例にみる「放課後子供教室」 ～地域の教育力を生かした居場所づくり～

小学校を会場とした事例:あだち放課後子ども教室



足立区教育委員会は、全小学校69校で「あだち放課後子ども教室」を実施しています。

運営は、学校ごとに地域やPTAの方々等によって組織された実行委員会が担い、その運営支援を公益財団法人足立区生涯学習振興公社(以下「公社」という。)に委託しています。また、学童保育室(※足立区における学童クラブ事業の名称)と情報連絡会を実施するなど、「放課後子ども総合プラン」(※7ページを参照)に基づき、放課後子供教室と学童保育室との連携強化にも努めています。

各校の実行委員会は、子供たちが日々の放課後を安全に安心して過ごせるように、保護者や地域の方々を見守り役のスタッフとして配置しています。

平成28年度からは、地域の教育力を生かした体験プログラムの充実に力を入れ、学童保育室の子供たちも一緒に参加できる体験・交流活動への取組を進めています。

一つは、「あだちこどもサポーター養成講座 子どもと遊ぶおりがみ教室」です。

公社では、日々の放課後子供教室の様子から、全体の安全管理を行うスタッフに加え、子供の話をゆっくり聞くことのできる大人の存在が必要ではないかと考え、「おりがみサポーター」を養成しています。「おりがみサポーター」は、「あだち放課後子ども教室」で、折り紙を教えながら、子供たちとコミュニケーションを取っています。

もう一つは、団体連携プログラムです。

公社が、学習や文化・スポーツ活動を普及している企業や団体と連携して企画した様々な体験プログラムを区内の放課後子供教室に紹介しています。そのうちの「将棋教室」は、公益社団法人日本将棋連盟(以下「将棋連盟」という。)の協力を得て実現しました。将棋連盟に所属する地域在住の指導棋士が講師となり、地域のボランティアがサポーターとして活躍しています。

地域社会の人間関係が希薄化し、核家族世帯が多い中、子供たちにとって放課後子供教室は、豊かな体験の場であるとともに地域の方々との異世代間の交流の絶好の機会となっています。

■地域の教育力を生かす取組

「あだち放課後子ども教室」で、子供たちの体験・交流活動を充実させるために実施されている取組のうち、今回は二つを紹介します。

《こうどう梅☆(ぼし)ぱれっと》の「おりがみ教室」



弘道小学校の《こうどう梅☆(ぼし)ぱれっと》では、月1回「おりがみ教室」を開催しています。

5月は「カーネーション」、6月は「アニメのキャラクター」、7月は「朝顔」と、季節感あふれる題材等の折り方を習います。「おりがみサポーター」の周りには子供たちがいっぱいです。

